

マリンカレッジ(少年水産教室)の開催

大 城 信 弘

1. 教室名

定置網体験教室

宜野座村漁協青年部

宜野座村役場水産係

2. 実施対象

宜野座中学校 2年6名

3. 目的

体験教室を催し、地元漁業への理解を深めて貰い、引いては将来の漁業への、新規取り組みの一助とする。

4. 開催場所

宜野座村漢那漁港及び、漁港地先島袋水産定置網。

5. 日程

平成15年11月19日

8:00 漁協前集合。開講。激励の挨拶(宮良香代子校長)。漁具漁法説明(島袋博幸青年漁業士)。出港準備。諸注意。

9:00 出港。定置網体験。

11:00 帰港。漁獲物処理。調理実習。

12:00 昼食。

13:00 シーズ社モズク乾燥工場見学(シーズ社与古田氏説明)。漁協クビレヅタ養殖試験、漁具観察、浮魚礁説明(仲宗根徳漁協専務)。

14:00 漁協・漁民との話し合い。体験感想報告

14:30 解散。

6. 関係機関

主催：水産試験場普及センター

協力：宜野座村漁業協同組合

7. 内容

平成15年11月19日、宜野座村漢那で定置網漁業体験が実施された。宜野座村漁協及び同青年部の全面的な協力の下、職場体験学習を兼ね宜野座中学校2年男子6名が参加した。

午前8時漁協前集合で、宮良香代子校長の激励の挨拶、島袋博幸青年漁業士の定置網模型を使っての事前説明の後、救命胴衣を着け乗船。

午前9時ウインチ付のひろ丸に乗り込み、小型船を伴って、いよいよ漢那漁港を出港した。前日までは荒天で、実施が危ぶまれたが、当日はどうか沖の定置網までいける状況であった。しかし余波はあり、9時20分の現場着時には引率の先生を含め、皆船酔い状態で、元気になっているのは1名のみで、作業が危ぶまれる程であった。

沖の大型定置の網揚げは少々難航した。先ずダイバーが潜り、袋網の口を揚げ、ロープを引き、徐々に袋を縮めていくが、この網揚げはラインホーラーが付いているとは言え、揺れる船の上ではかなりの重労働であった。

此処は船酔いの生徒も力を合わせ網揚げはどうか完了したが、天候の為か網の返しが緩み漁獲物は少なめであった。それでも大きなガーラが4匹揚がると船酔いも忘れ、抱きかかえ写真に収まった。

戻りの岸近くの小型網は、波も収まり、元気を取り戻し作業要領も覚え、かなりスムーズに進み、グルクマと共に亀が上がると捕まえるのに大わらわであった。

岸に戻る頃には、すっかり船酔いも取れ、生

徒らの回復力には目を見張るものがあった。その後、漁獲物を調べ、魚の捌き方の実習と共に、刺身、魚汁の調理を行った。まずは青年部が見本でプロの腕前を披露し、それから各自調理に取りかかった。しかし殆どが魚を捌いたことは無く、時間が掛かり魚が水でふやけてしまわないかと心配されたが、どうにか捌き終えた。

昼食は教頭先生も激励に駆けつけ、自分たちでおこした刺身をおかずに、魚汁、炊き立てご飯に舌鼓を打った。

その後、シーズ社の乾燥モズク製造の説明を与古多氏にさせていただき、又漁協の仲宗根専務の案内で、モズクの種付けや海ブドウ養殖の見学、パヤオやソデイカ漁の説明を受けた。

その後、宜野座村の漁業についての質疑や、その他の話し合いが行われたが、次はどのような漁業体験をしたいかの問いには、船酔いが堪えたのか暫く答えあぐねていた。

それでも是非パヤオに行って釣りをしたいとの声や、海ブドウの陸上養殖に興味を示す等、

とても勉強になったとの感想で、海人になるかもしれないとの声もあり、漁業への理解が深まり、関心が強まった様であった。

最後に、本日の感想発表等で締めくくったが、終わりの会は生徒等自らの司会進行で、各自の報告、次いでお礼で終了した。

尚、本自習は父母の了解の元、宜野座中学校、宜野座村漁協、同青年部、島袋水産、宜野座村役場水産係の全面的な協力により実施され、改めて感謝致します。



図-3 網上げ作業

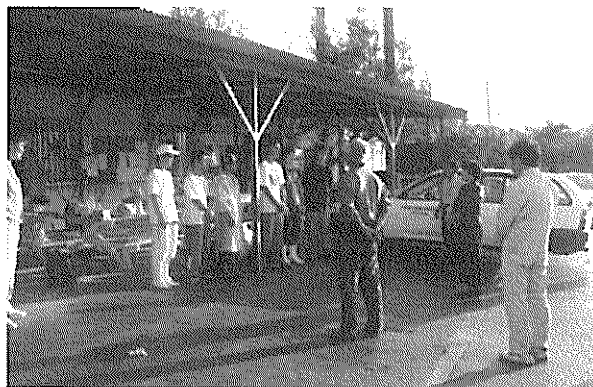


図-1 校長先生の激励の挨拶

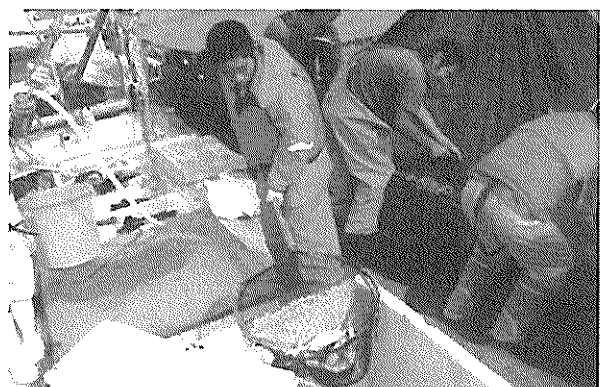


図-4 魚槽への取り込み

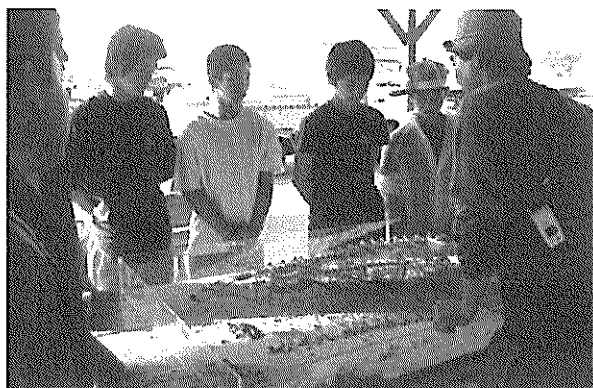


図-2 島袋青年漁業士の定置網説明



図-5 大物ガーラに船酔いも忘れる



図-6 漁獲物調べ、選別



図-7 刺身調理開始



図-8 総出の刺身切り



図-9 車座になったの昼食



図-10 与古田氏の乾燥モズク説明

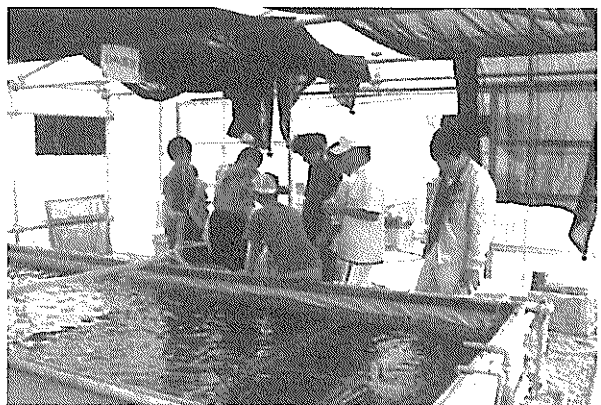


図-11 仲宗根専務の海ブドウ説明

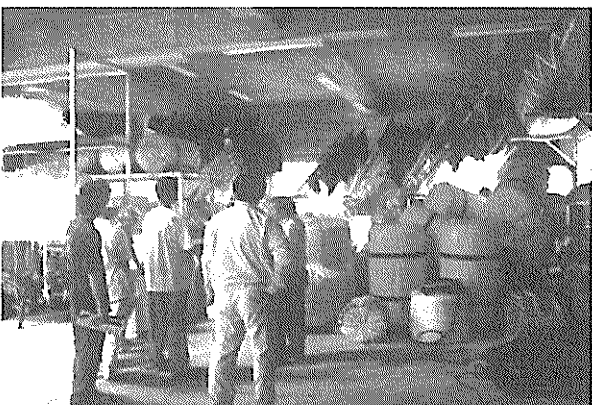


図-12 延縄、釣り等漁具・漁法説明

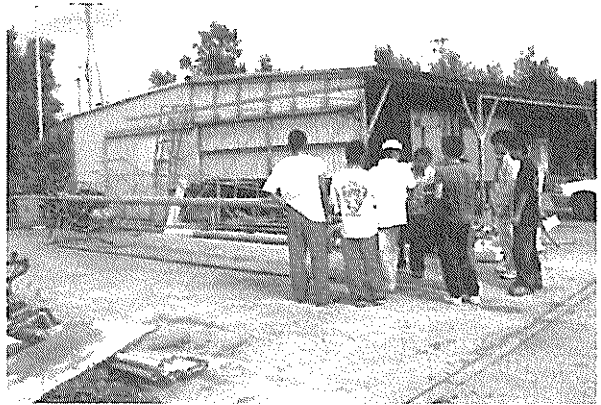


図-13 作成中の浮き魚礁説明



図-14 終わりの会



図-15 お礼の寄せ書き